

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：26401
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：17K17446
研究課題名（和文）トランジションを基盤としたICU新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Transition-based Support Program to Improve Nursing Practice Ability of New ICU Nurses

研究代表者
田中 雅美（Tanaka, Masami）
高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：50784899
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はTransitions Theory を基盤に、ICU 新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムを開発することを目的とした。まず、ICU看護師へのインタビュー調査を実施し、ICU新人看護師の transition 状況や、健全な transition を迎えるために必要なターニングポイント、transition を促進する要因、について明らかにした。そして、ICU新人看護師の教育支援に携わる看護師のグループインタビューから、OJT で可能な支援内容や、支援を阻害する要因について明らかにした。それらをもとに、ICU新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムの枠組みを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、ICU新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムの枠組みを作成した。プログラム作成までは至らなかったが、研究を進めるなかで、個人の成長プロセスに応じた柔軟な支援の重要性が明らかになり、新人に限らずICU看護師への支援に応用できる枠組みを作成できたと考える。COVID-19感染拡大により、クリティカルケアの専門的な実践力を有する人材確保や人材育成の重要性が明るみとなった現状において、成長プロセスに応じて柔軟に支援できるプログラムの開発を継続することは、看護師のスムーズな成長の獲得と支援者の継続教育への負担軽減につながり、クリティカルケア看護師の定着促進に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a program to support new ICU nurses in improving their nursing practice ability based on the Transitions Theory. The first step was to conduct an interview survey of ICU nurses to clarify the transition status of new ICU nurses, the turning points necessary for healthy transitions, and the factors that promote transitions. Then, from group interviews with nurses involved in supporting the education of new ICU nurses, we clarified what support is possible through on-the-job training and what factors hinder such support. Based on these findings, the framework for a program to support new ICU nurses in improving their nursing practice ability was developed.

研究分野：クリティカルケア看護学

キーワード：transition ICU 新人看護師

1. 研究開始当初の背景

高齢化社会・慢性疾患増加と高度医療の狭間で、ICU 看護師には重症患者の安定化や回復を目指し、ますます多様化する患者や家族のニーズに柔軟に対応できる看護実践能力が求められている。しかし、ICU における専門的知識や技術の統合は、看護基礎教育の中では臨地実習における短期間の ICU 見学実習に留まる傾向にあり、多くを現任教育に委ねている。そのため、近年 ICU では実践的知識や技術の習得に時間を要する新卒看護師の配属を避け、経験的知識・技術を有する看護師(配置転換・中途採用看護師)を配属する傾向にあり、即時的戦力に渴望している状況にある。また、ICU 経験の浅い看護師が直面する困難や ICU 看護師の実践に関する研究が蓄積されつつある段階にあり、看護実践能力を育成するための模索が続いている状況であるため、ICU での教育プログラムの多くは専門的知識や技術の修得に向けたものにとどまっている。そこで、知識や技術にとどまらない看護実践能力向上に焦点を当てた支援プログラムを開発することにより、多様化する患者・家族のニーズに応えることのできる看護師の育成につながる。

2. 研究の目的

本研究は Transitions Theory を基盤に、ICU 新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムを開発することを目的とし、以下の目標を設定した。

Transitions Theory を基盤に ICU 看護師の transition 経験を明らかにする。

全国の ICU 新人看護師教育プログラムの要件を明らかにする。

をもとに ICU 新人看護師が健全な transition を経て看護実践能力を向上するための支援内容を検討する。

をもとに『ICU 新人看護師の看護実践能力向上支援プログラム(案)』を作成する。
シミュレーションによる試行とスーパーバイズによりプログラムを洗練化する。

3. 研究の方法

(1) ICU 新人看護師の transition 経験の記述

関東圏・四国圏の看護師経験 5 年以内、ICU 経験 3~5 年程度の ICU 看護師 13 名を対象に半構成的インタビューを実施した。

(2) 全国の ICU 新人看護師教育プログラムにおける要件の抽出

当初は、全国の ICU を有する医療機関に調査依頼し、ICU における新人看護師の教育プログラムの収集を行い、教育内容の要件を抽出して、(1)の結果と照らし合わせることで、支援方法を検討する予定だった。しかし、(1)の結果、ICU 新人看護師の transition 経験は個性性の高いプロセスであることがわかった。そのため、当初の方法よりも、ICU 新人看護師が健全な transition を迎えるために必要な要素であるターニングポイントや気づきの場面と transition の促進要因の抽出により、個性性のある transition にも柔軟に対応できる支援方法を検討した方がよいと考え、追加インタビューを予定した。

また、2018 年には救急看護師クリニカルラダー、2019 年には集中治療に携わる看護師のクリニカルラダーが公表され、教育指標が公になった経緯も踏まえ、研究方法を変更した。

(3) ターニングポイントや気づきの場面、促進要因の抽出

ICU 新人看護師が健全な transition を迎えるために必要なターニングポイントや気づきの場面、transition の促進要因の抽出のために、ICU 看護師にインタビューを追加して行う予定だったが、Covit-19 感染拡大の影響により、インタビューを断念した。そこで、(1)で得られたデータについて、ターニングポイントや気づきの内容、促進要因の抽出、の視点から再分析を行った。

(4) 支援内容の検討と課題の抽出

(3)の結果より、ICU 新人看護師個々の transition に応じたタイミングや内容での支援、つまり OJT (On-the-Job Training) での支援が、ICU 新人看護師の健全な transition を促進するためには重要であることが分かった。そこで、OJT で可能な支援内容と支援を阻害する要因について、ICU 新人看護師教育に携わる看護師 3 名を対象に、フォーカスグループインタビューを実施した。

(5) 支援プログラム作成に向けた枠組みの作成と洗練化

当初は支援プログラム(案)を作成し、シミュレーションによる試行により洗練化する予定だったが、共通するターニングポイントや気づきの場面を抽出してシミュレーションを行うことよりも、ICU 新人看護師の transition 状況を支援する側の ICU 看護師がアセスメントできる指標を作成することで柔軟な支援につながると考えた。そこで、本研究では、(1)~(4)をもとに、看護実践能力向上支援プログラムの枠組み(案)を作成し、スーパーバイズを得て洗練化を図るまで

とした。今後、この枠組みを活用し、支援側の ICU 看護師が、transition 状況をアセスメントすることにより効果的・効率的に成長を支援できるプログラムを開発し、アクションリサーチにて検証していく。

4. 研究成果

(1) ICU 新人看護師の transition 経験の記述

ICU 新人看護師は、重篤な患者を対象とするがゆえに、知識や技術の曖昧さやケアによる患者への影響の大きさから「不安や責任」を感じ、「とにかく勉強する対処行動」をとっていた。そして、「職場での人間関係形成」を大きなきっかけとして、先輩看護師や医師、臨床工学技士への質問や意見交換ができるようになることで視野が広がり、「自分の考えやケアに自信」をもてる機会が増えていた。ICU は患者の身体変化を読み取るための検査データや医療機器などの指標が多く存在し、病態と所見、ケアと所見が目に見えてつながる特徴があり、新人看護師に「ケアの成果の実感」や、「知識がつながる楽しさ」を与えていた。さらに、病状悪化や回復などの「患者の変化について振り返る」ことで、些細な身体変化に気づくことの重要性を認識し、「尊敬する先輩と自分の行動を比較」しながら回復を促す援助について考えていた。一方で、新人看護師の多くは自らの成長に鈍感であり、担当患者数の増加や重症患者の担当になることを通して「任せられる感覚」や、「できるようになったと周囲から伝えてもらう」こと、「先輩と一緒に振り返る」ことで自身の成長を捉えていた。

(2) ターニングポイントや気づきの場面と transition の促進要因の抽出

新人看護師は「他者ができていると感じる場面」や「自分ができていないと感じる場面」をきっかけに、「先輩と自分の思考や実践を比較」しながら、成長に向けて何ができるか考え取り組んでいた。また、「わかることやできることが増える」こと、「任せてもらえる」こと、「自分の看護実践の効果を実感する」ことで、自身の成長の変化に気づいていた。そして、相談や意見の発信ができるような「周囲との関係の広がり」を基に、先輩看護師との「健全な相互作用を得る」ことや、「自分の看護観に沿った実践への支援を得る」ことが transition の促進に重要であることがわかった。

(3) 支援方法の検討と課題の抽出

OJT で可能な支援内容として、「新人看護師の様子や反応から捉えた看護観を後押しする」、「重症患者への実践を言語化することで知識と現象のつながりを促す」、「スタッフとの関係形成の程度によって関わり方を変更する」等が抽出された。また、支援を阻害する要因としては、OJT での「支援指標が明確でない」ことや、重症患者を対象とするがゆえの「支援者側の保守的な姿勢」、技術の習熟度や疾患の理解度等の「明確に可視化できる指標を頼りに進捗をはかる文化」、などが抽出された。

(4) 支援プログラム作成に向けた枠組みの作成と洗練化

(1)～(3)を踏まえて、支援プログラム作成に向けた枠組みを作成し、スーパーバイズにより洗練化を図った(図・支援プログラムの枠組み)。

(1)(2)の結果から、ICU 新人看護師の transition 経験は個別性の高いプロセスであり、支援内容やタイミングは個別性に応じたものでないと効果的でないことが推察された。そこで、Transition Theory を基に(1)(2)の結果を解釈することで、ICU 新人看護師の成長プロセスの概観となる枠組みを作成した。ICU 新人看護師が看護実践能力を向上させていくプロセスは、今までの自分との「遮断」から始まる。遮断とは、環境の変化と新たな人間関係構築の必要性が立ちだかる状況に新人看護師が孤独を感じ、重症患者を対象とする看護への責任感から、患者を守る立場へと自己の立場の変化を実感することであり、自信のなさを経験することである。それでもなお、ICU 看護師として成長するために、周囲に進むべき方向を示してもらいながら取り組みを続けること(「エンゲイジメント」)や、些細であってもできるようになっていることを先輩看護師から伝えてもらうこと(承認による「自信の獲得」)を繰り返すなかで、徐々に周囲とのコミュニケーションの広がりを得ていく。周囲とのコミュニケーションの広がりを得ることで、やっと一員になれたと自分の「居場所」や周囲との「つながり感」を感じることができ、自ら意見の発信や相談ができるようになる、あるいはカンファレンス等を通して他者の意見を実践に取り入れることができるようになっていく。そのなかで、周囲とのコミュニケーションの広がりだけでなく、信頼する先輩看護師との「健全な相互作用」を獲得することにより、自身の看護観に沿った看護実践の幅を広げていくことができる(「個人資源の豊かさ」、「柔軟なアイデンティティ」)。この成長プロセスの概観は、健全な transition を迎える要件を示したものであり、必ずしも一様に同じプロセスを迎えるものではないこと、自信の喪失やエンゲイジメントできない状況などが生じることで再度遮断の状況を迎え、小さな transition を繰り返しながら特有のプロセスを迎えることを想定しておく必要があることについて、スーパーバイズを得た。

そして(2)の結果より、ICU 新人看護師の成長を柔軟に支援するためには、新人看護師の transition 状況をリアルタイムに把握でき、OJT で支援できる ICU 看護師が支援者となる必要があることがわかった。また(3)の結果から、ICU 新人看護師の成長に応じた効果的な支援をするためには、個々の transition に応じた柔軟な設定が可能な目標や、transition 状況をアセス

ントできる指標、個々の transition に合わせた具体的なアプローチの要件が、支援のポイントとなると考えた。個々の成長を支える[支援目標]としては、「救急看護師のクリニカルラダー」、「集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー」、「社会人基礎力」、部署の教育プログラム等の既存指標を組み合わせることで、知識や技術以外の能力も含めた包括的な成長を可視化できる内容とする。また、柔軟な目標設定ができるように、能力要素を柱立てした目標を作成することで、個々の transition 状況に応じて、今の時期にどの能力要素を伸ばしていく支援に重点を置くのかを支援者側が共有できるようにしておくことについて、スーパーバイズを得た。次に、個人の成長プロセスを[アセスメントする指標]は、(1)(2)の結果や Transition Theory のプロセス指標やアウトカム指標を参考に、健全な transition を辿ることができているかどうか、個々の進捗の程度を可視化できる指標とし、上手く進まない時に何につまずいているのかを支援側がアセスメントできるようにする。そして、個人の成長に着目した[アプローチの要件]としては、個々の transition 状況に応じたタイミングを逃さないアプローチや、個々の看護観を後押しする目標設定と支援のプランニングについて、OJT で実現できるように、支援者側が押さえておくべきポイントについて示していく。

今後は、この枠組みを活用して、ICU 看護師の成長を支えるプログラムについて試作し、アクションリサーチにて検証していく。

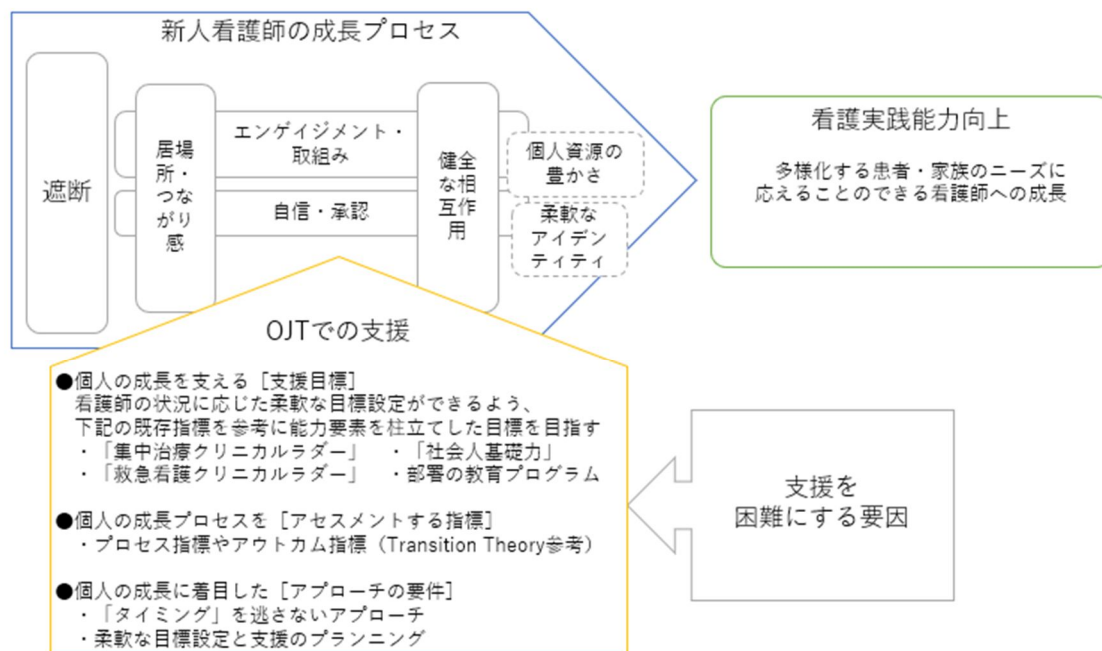


図. 支援プログラムの枠組み

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中雅美, 大川宣容	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 2. ICU新人看護師の成長支援におけるTransition Theory活用の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高知女子大学看護学会誌	6. 最初と最後の頁 2 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田中雅美
2. 発表標題 ICU新人看護師のtransition
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------